

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名	平野区
学校名	長吉東小学校
学校長名	片岡 幹雄

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・長吉東小学校では、第6学年 65名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

長吉東小学校児童の平均正答率は、国語が54（大阪市65）算数が46（大阪市58）理科が45（大阪市55）であった。依然として大阪市の平均を下回っているが、その差は年々小さくなっている。わざかではあるが取り組みの成果が表れているといえる。特に無回答率が昨年と比較して大きく改善した。「わからない」とすぐにあきらめるのではなく、何とか解こうとする気持ちをこれからも育てていきたい。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語] 昨年度よりも上昇したものの、大阪市平均を下回る結果となった。特に「情報の扱い方に関する事項」での差が大きかった。反対に、これまで本校の課題であった「我が国の言語文化に関する事項」については改善がみられ、大阪市平均との差が縮まった。

[算数] いずれの領域も大阪市平均を下回る結果となっている。しかし「変化と関係」の領域は昨年度までと比較して大きく向上し、大阪市平均との差が小さくなっている。

[理科] 大阪市平均を下回る結果となった。特に「エネルギーを柱とする領域」が課題で大阪市の平均を大きく下回っている。

「学力向上支援チーム事業」により「学びコラボレーター」が配置されている。また「学力向上サポート」も数多く登録されている。授業の中で困っている児童への学習支援を行っているが、依然として学力の課題は大きい。

質問調査より

将来への夢を持っている児童の割合が高く、全国平均を5ポイント上回っている。引き続きキャリア教育の充実を進め、夢や目標を持つことの大切さを伝えたい。また、「先生はわかるまで教えてくれる」の質問において、肯定的な回答をする児童の割合が高かった。丁寧な指導を続けていきたい。課題は「基本的な生活習慣の確立」である。朝ご飯を食べている児童の割合が全国と比較して9ポイントも低かった。また、学校の授業以外に全く学習をしていない児童の割合が26.9%に達していた。これは全国平均の約4倍であった。規則正しい生活を中心とし、学習の習慣をつけることを啓発していきたい。

今後の取組(アクションプラン)

学力向上の取り組みを定め、全教職員で共通理解して進めていく。①SWPBS（学校におけるポジティブな行動の支援）を行う。授業中の学びの雰囲気を根付かせる。「チャイムで着席」の取り組みを継続する。②「漢字の定着」児童が前年度までに学習した漢字を必ず書けるようにする。③「計算力の向上」プリントを活用し基礎的な力をつける。④「読書活動の推進」朝の読書週間の設定・平野区読書推進事業（ひらちゃんノート）の活用。⑤「授業の工夫」45分の授業を大切にし、課題を工夫する。ペアやグループで話し合う活動を積極的に取り入れる。学習を振り返る時間を確保する。⑥「家庭学習時間の増加」毎週火曜日と木曜日に放課後学習を実施、金曜日には週末スタディーのプリントを配布し、児童の学力向上を図る。